

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871800199		
法人名	有限会社 サンミルクサービス		
事業所名	グループホーム バンヤンツリー		
所在地	茨城県坂東市岩井5200-29		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村受理日	平成22年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の一員として、入居後も以前と変わらず、行きつけの美容院へ通ったり、毎月の外食では個人個人のなじみの料理屋さんを聞き食べに行くなどして、地域社会との関係の継続をはかっている。
 ・利用者一人一人のペースで入浴、外出、食事をし、希望に応じて嗜好品、外出を行っている。
 ・職員と一対一の通院、散髪の手配等に時間を設け利用者の希望に沿った外出を行い、気分転換を図っている。
 ・季節感を肌で感じてもらえるよう、四季に応じて外出のアレンジをしている。梅、桜、あやめ、あじさい、蓮、菊等の観賞だけでなく、初詣、地域の夏祭りへの参加、近隣の学校の運動会への見学等積極的に外出を行い、職員も一緒に楽しみを共有している。
 ・毎月、担当職員が広報誌を作成、個別に近況報告を行っている。家族にも、とても好評いただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0871800199&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成22年10月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまでの理念を検討し、利用者がこれまでの生活と、これからの生活が継続されたものになるように見直した。ミーティングやカンファレンス等で確認しながら共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加したり、定期的にボランティアの受け入れも行い交流をはかっている。散歩時もお互い声を掛け合う関係が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や認知症の相談を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の実施や、市や消防署等からの立ち入りや、家族からの意見、要望についても報告をしている。また、それらについて意見を伺い、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員と連携を取り、利用者数の報告をしている。認定更新の機会や解決困難事例等の相談事項に応じ対応してもらったり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え連携を努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって利用者が受ける弊害について職員全員が理解しているだけでなく、ミーティング、日々のケアの中でも振り返り、点検、確認をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、周知をはかり、虐待防止へつなげている。虐待が見過ごされることのないよう職員全体で注意を払うよう努めている。		

茨城県 グループホームバンヤンツリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の協力を得て勉強会を行い職員が学ぶ機会を設けているが、全職員が必要な時に個々へ活用できる支援体制にはなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と十分な時間をとり説明を行っている。特に分かりにくい所は補足をしたりしている。また、リスク等もしっかりと説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	かわらばんや面会時などで積極的に声をかけ意見、要望を聞く雰囲気作りをしている。さらに、各行事毎に家族会を開催し、家族の意見がサービス向上につながることを説明して、気軽に意見を出してもらえよう関係作りに努めている。出された意見等は職員間で話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会、個人面談で意見を聞く時間を設けている。また、常にコミュニケーションを図るように心がけ、職員の声を聴くよう努めている。さらに代表者、管理者で話し合い、意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談し、勤務状況や仕事の負担、悩み等を把握している。職員の能力を把握し、向上心を持って働けるよう業務の分担を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正社員、パートの隔たりなく研修へ参加するよう努めている。また、それらの研修報告はミーティングで発表してもらっている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護サービス事業者会議へ参加し同業者と交流する機会を作っているが一部の職員に偏っていて、相互訪問までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人家族の両面から生活状態を把握するように努め、また本人と会話しながら理解し、過ごしやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯についてしっかりと家族の話を聴きスタッフ間で申し送り、ケースを見て家族の思いを理解し関係作りに努めている。また面会時には話を伺うよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族より相談を受けた時その時に必要な支援を事業所内で出来る支援や改善に向けた提案等を伝え、徐々に会話の中で話を伺うようにし、必要サービスを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬意を持ち接し、会話や言動、行動を通して共感、理解に努めている。利用者様の得意分野を生かせるよう支援し共に生活しているという意識を常に持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時は本人の日々の暮らしや状態を報告し、通常の以外の通院等があった場合には電話で報告している。また、広報誌等でも日々の様子を個別に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と相談したりし理髪店、外食先等も決めたり一人一人の生活習慣を尊重するよう努めている。遠方の入居者様はどうしても親密さが希薄になりがちである。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している。食事の後片付けの際に関わりを持ったり、居室で利用者同士で談話してもらったり、またトラブルが起きた際にはスタッフが介入する等、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移動した方にスタッフや利用者で面会に行き談笑する姿も見られ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などから真意を推察したり、それとなく確認するよう努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の事前面接で本人、家族等の両面から生活状態を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の大きな流れや行動、言動をケースに記録し、現状の把握に努めている。疑問に思う時はスタッフ間で更に聞き取るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、より良く暮らせるよう努めている。職員全員でカンファレンス等を行い介護計画に役立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、水分、排泄等の記録や会話や特記事項についての記録も行い、職員間で気づきを共有し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院、面会、送迎等必要な支援は出来るだけ柔軟に対応し、要求に応じた生活を送ってもらえるよう努めている。		

茨城県 グループホームバンヤンツリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館活動のイベント参加やお祭り、事業所内でのイベント等に地域のボランティアの方々に来訪していただいたり楽しませられている。運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり協力関係も強化した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前の受診状況や今後の受診の希望を聞き、希望に沿った受診の支援をしている。受診状況、結果はその都度、または定期的に情報のやりとりをし、共有してる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師に利用者の状況を提供、把握してもらっている。また、いつでも相談、助言を受けられる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は出来るだけ面会に行き、病院担当者と話しをし情報交換を行い、事業所に対応できる段階で早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の支援を入所時に説明している。状態の変化があればその都度医療機関も交えて話し合いを行い、その経過、結果について連絡記録に記載し、全職員が周知している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、ミーティング等で周知を図ると共にマニュアルを整備している。事例検討を行い実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を行い、昼夜を問わず職員が対応できるよう体制を整えている。しかし、運営推進会議等で地域住民の方へお願いするも体制作りまでには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生き方を踏まえ、尊重し、利用者様の事は苗字にさん付けで呼ぶ。また、声かけ時は本人に分かるよう小さい声で伝えるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が言葉では十分に意思表示が出来ない場合でも表情や反応を注意深く見極め、思いや希望を把握するよう努めている。また、本人に分かる言葉使いで自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カンファレンス等で個々の希望に沿った支援が出来るよう意見を出し合って方針を決めているが、出来ていない日もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え時には本人の希望や好みを聞き支援している。また、好みによりマニキュアを塗ったり髪を染めたり、男性では髭剃りやきちんとした服装等ができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出前寿司を取ったり、流しそうめんを楽しんだり、ホームで採れたニラで味噌汁を作ったり。職員と一緒に後片付けや食器洗い等をし、楽しまれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量をチェック表等から把握し支援に努めている。飲みたい時に飲めるようにも支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた支援を行っているが拒否がある場合には行わない時もあり、水でうがいだけでも行ってもらうようすすめている。		

茨城県 グループホームバンヤンツリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を計って声かけするよう心がけている。リハビリパンツよりも布パンツで過ごし、気づきを待つなど個々に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでいただいている。また、排便の有無をチェックし必要に応じて水分摂取や運動を促すよう心がけているが、充分ではない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に出来るだけ答えられるよう入浴の順番や時間帯など聞き行っている。また、同性介護を必要に応じて行ったり、入浴中に利用者にお話する等、楽しく気持ち良く入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活の把握をし適宜の休息を声かけしたり、本人の好きな時間に休んでもらう。就寝までの時間にTVを観ていただく等、落ち着いて過ごしていただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等を把握し、症状の変化に注意し支援している。分からないことや、不明なことは薬ファイルや薬剤師に相談し疑問を解決するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来そうな事、やりたい事等をお願いし、食事の後片付けや食器拭き、洗濯干し、消毒用布切り、雑巾縫い等をしていただいたり、タバコをたしなんでいただける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩への声かけや買い物、お花見に行ったり、希望に合わせた支援や、予定がなくても一緒に買い物等楽しませている。また、家族と出かけられる利用者もいますが日常的になると一部の方々の面もある。		

茨城県 グループホームバンヤンツリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホーム側がまとめて管理しているが買い物の際の支払いは可能な方には本人が払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行っていないが、電話は本人の希望があった際は支援している。また、ゆっくりお話し出来るよう自室等で楽しみながらお話しをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音量、温度、明るさ、臭い等に配慮し適度に花を飾ったり、散歩の途中で摘み取った草花や木の実を花瓶に生けたりし、季節感のある生活空間を作ることにより居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、庭先、玄関にベンチを置き、また、ソファー、畳、ロビー等、一人又は仲の良い方々で過ごせるような場所を設けている。また、喫煙場所も確保しており、楽しむ事も出来るよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持ち込みをすすめるも、持ち込む利用者の数は少数で写真や花を飾られる好みは多い。本人の意向を聞き居心地良く過ごせるよう工夫をしている。仏壇を守りお供えをかかさず実行するのを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせた福祉機器を利用したり、できること、わかることを活かし不安や混乱させる要因を検討し取り除き、自立した生活が送れるよう努めている。		